



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/19 (月)	+ 400	▲ 2,100	▲ 1,700	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 1,600		欧：ユーロ圏CPI (4月)
5/20 (火)	+ 1,000	+ 1,000	+ 2,000	国庫短期証券発行償還 (1Y)			欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (5月)
5/21 (水)	+ 1,000	▲ 16,000	▲ 15,000	国債発行 (20年)			日：貿易収支 (4月)
5/22 (木)	トン	+ 17,000	+ 17,000	各種財政資金の支払い			日：日銀の野口審議委員、宮崎県金融経済懇談会で講演 米：新規失業保険申請件数 (5月17日終了週) 欧：ECB議事要旨 (4月開催分)
5/23 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	国債発行 (物連10年)			日：全国CPI (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2,700億円減少の533兆9,200億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行、源泉税揚げ等の要因により増減し、16日は530兆1,800億円 (速報) で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。
ターム物は1W~3W物0.48%~0.61%のレンジ、1M~3M物0.54%~0.60%のレンジで出が見られた。
来週の予定は、国内では、22日に日銀野口審議委員、宮崎県金融経済懇談会で講演、23日に全国CPI (4月) の公表。海外では20日にG7財務相・中央銀行総裁会議 (23日まで) と22日にECB議事要旨 (4月開催分) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.53 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.75
6M	0.65 ~ 0.80

<レポ>

足許GC取引は週を通して+0.48%~+0.49%の狭いレンジで出合い。輪番のあった14日も水準に変化は見られなかった。
SC取引は2年460~468回債、5年155~177回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆7,100億円で、週間償還額の1兆2,600億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆1,978億円から、5月15日時点で23兆4,504億円に増加した。発行市場は、不動産、鉱業、小売業、建設業で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物では、0.50%台前半から0.50%台半ばでの出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%台半ばとなった。
来週の償還額は1兆1,000億円となっている。発行市場は、大きな増加・減少要因無く落ち着いたマーケットとなることが予想される。1か月物に関しては0.50%台前半から0.50%台半ばでの出合い、3か月物に関しては0.50%台後半から0.60%台半ばと、横ばい圏での出合いを予想する。

<TDB>

16日の3M (1306回債) の入札は、最高落札利回り0.3793% (前回債0.4090%)、平均落札利回り0.3677% (前回債0.3979%) となった。
来週の入札は19日に1Y、23日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。